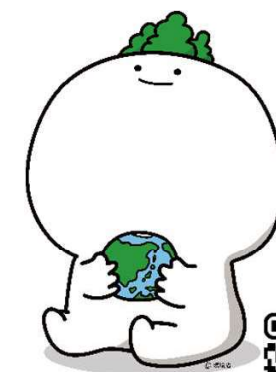




# LEAPアプローチ Assessに関するディスカッション

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《アドバンス編》  
第2回 ライフサイクル全体を通じた自然との関わりの評価・分析②

2023年12月19日



ご利用はコチラ→



## TNFDが推奨するLEAPアプローチとは

- ▶ LEAPアプローチは、**自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチ**として、TNFDにより開発されました。
- ▶ LEAPアプローチでは、**スコーピングを経て、Locate（発見する）、Evaluate（診断する）、Assess（評価する）、Prepare（準備する）のステップを踏み、TNFD情報開示に向けた準備を行います。**
- ▶ LEAPアプローチは、TNFDが推奨するステップであり、**実施は必須とされていませんが、パイロットテストの結果からも有効とされています。**



# 1

ディスカッション内容の説明

## ディスカッション内容の説明

- ▶ Assessフェーズでは、LocateおよびEvaluateフェーズで特定された自然への依存関係とインパクトに起因する、**自然関連のリスクと機会の特定、測定、優先順位付け**を行います。
- ▶ 自然関連のリスクや機会を特定・分析し（A3）、マテリアリティを決定してTNFDで開示するためには、**各リスク・機会の優先順位付け**が必要となります。

議題：貴社では、想定される複数のリスクに対して、どのような点を考慮して対策を取るべきリスクの**優先順位**をつけますか？

TNFDは、優先順位付けの際の基準の一例として下記を挙げています。

順位付けの基準	定義
重大さ (Magnitude)	シナリオ分析等を通じたリスク評価手法による測定やリスクの影響を基にした、組織にとってのリスクと機会の重要性のこと
可能性 (Likelihood)	その特定したリスクが実際に起こりそうな確率が高いという重大な情報
自然に対する影響の感度	スケール・スコープ・負の影響による回復できない特徴もしくは自然に対する正の影響
社会への影響	自然から社会に与えている影響を価値換算する

# 2 宿題

- ▶ Assessフェーズでは、LocateおよびEvaluateフェーズで特定された自然への依存関係とインパクトに起因する、**自然関連のリスクと機会の特定、測定、優先順位付け**を行います。
- ▶ 自然関連のリスクや機会を特定・分析し（A3）、マテリアリティを決定してTNFDで開示するためには、**各リスク・機会の優先順位付け**が必要となります。

議題：貴社では、想定される複数のリスクに対して、どのような点を考慮して対策を取るべきリスクの**優先順位**をつけますか？

## 回答例

優先順位付けを行う観点	理由
自社製品に使用している原材料の使用量	調達量もしくは生産量が多いほど、原産地で自然に対する影響を与えている度合いが大きいと考えられるため
直接操業地での土砂災害等の発生可能性の度合い	生物多様性の劣化や森林破壊による土砂災害等の発生により、自社の生産地や工場の操業が阻害され、製品供給の不安定化や復旧に対してコストが発生する可能性があるため
生物多様性喪失による顧客からの評判の喪失	自社のバリューチェーン上で自然に与える負の影響により、エシカル消費の購入対象外となり売上減少につながる可能性があるため

# 3 ディスカッション内容の共有 EYからの話題提供

▶ TNFDの推奨する基準を参考に、各種指標を定量的・定性的に利用することが可能である。

順位付けの基準	想定される優先順位付けの方法
事業への重大さ (Magnitude)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自社事業の特性を把握し分析し、シナリオ分析を実施する。</li> <li>▶ TCFDに既に取り組んでおり、気候変動によるリスクと機会の財務影響の算定を実施していた場合、その情報を活用する。</li> </ul>
可能性 (Likelihood)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 特定したリスクの高い原材料に対して、どれだけ資源が残っており、どれだけ依存しているかをScience Based Targets for Nature (SBTs for Nature) のStep 2 Prioritizationフェーズを参考に優先順位付けを行う。</li> </ul>
自然に対する影響の感度	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SBTs for Natureの手法を用いて自然に対するAssessを実施する</li> <li>▶ 環境アセスメントの手法を用いて、自社事業が周辺の自然環境、地域生活環境などに与える影響を調査・予測・評価する。</li> <li>▶ 環境負荷による「絶滅時間（現時点から生物が絶滅するまでの時間）」や「純一次生産力（植物が光合成により有機物を生産する総量から植物自体の呼吸を除外したもの）」の変化などもインパクトを測る指標として活用することができる。</li> </ul>
社会への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自然関連リスクの財務的な影響を定量的・定性的に測定する。</li> <li>▶ 自然資本の評価を通じて意思決定を実施するためのNatural Capital Protocolのフレームワークを用いる。</li> <li>▶ LIME3を用いて事業活動の自然への影響を貨幣価値に換算して比較する。</li> </ul>